

しいたけ生産者見学会報告

実施日:2014年11月13日(木)

場所:丸エビ倶楽部生産者・梶間さん宅(銚田市)

参加者:生活クラブ茨城組合員4名+事務局1名

丸エビ倶楽部生産者1名+事務局1名

丸エビ倶楽部の椎茸生産者・梶間さんを訪問したのは、2012年12月以来となります。しいたけの出荷制限の現状を知り、復興支援の取組みにつなげるために、約2年ぶりに訪問しました。

原木しいたけの出荷制限の状況に変化が出てきています。銚田市では、2011年10月に原木しいたけにかかる出荷制限が指示されました。出荷制限は、現在、市町村単位でかかっているため、出荷制限が解除されるのが困難でしたが、生産者単位での出荷制限解除の動きが出ているため、4月から取組みを再開できる可能性が出てきています。

しかし出荷制限が解除されても、利用が震災前ほどに回復するとは考えられません。生産者の放射能対策の取組みを生活クラブの組合員に知って伝えてほしいという思いもあり、丸エビ倶楽部から事業管理部長の平澤さん、生産管理部長の粉川さんも一緒に参加されました。

初めに生産者・参加者の自己紹介のあと、梶間さんから1時間弱ほど、楢木(ほだぎ=椎茸の原木)の線量の研究成果の報告がありました。梶間さんは震災前までは栃木や福島から原木を仕入れていましたが、現在、福島の原木は1万5,000Bq/kgと非常に高い数値が出ています。原木から椎茸への移行係数は3~4.5もあります。原木は洗浄すれば線量を落とすことができますが、栃木の原木で35Bq/kg、長野の20Bq/kgです。出荷制限が解除されても、80Bq/kgの椎茸は売れません。

現在は「不検出」の大分の原木を使っていますが、九州の原木の需要が増えることで価格が上がるなどの問題が発生しています。また、大分から仕入れた原木は運送業者が運ぶため、保管するハウスの中まで運び込むための膨大な手間がかかります。

福島第一原発事故の影響は、このような形で日本全体に及んでいます。出荷制限が解除されるならば大きな一歩ですが、復興支援の取組みは終わりが見えません。

復興支援・生産者支援として取組む「干し芋」(品種は「紅はるか」)、ちょうどハウス内で乾燥しているところでした。紅はるかは甘味がありますが、ふかしてから切るには柔らかすぎるため、半冷凍の状態で切っています。生産者のお話では、半冷凍状態で切った方が、甘みも増すといいます。椎茸の供給の再開を祈ると同時に、研究が進んだ干し芋も楽しみです。震災と放射能問題に向き合う生産者の努力が報われることを願わずにはられません。



写真:分厚い測定結果の資料を見せながらお話をする梶間さん(左)



写真:ハウスの中には、比較的線量が低い原木が保管されていますが、これらもいずれ廃棄するものです。

